



東地中海地域ニュース

シリア：バッシャール大統領インタビュー

(3月10日付ワタン紙)

10日付ワタン紙は、9日発行のUAE紙アル・ハリージに掲載されたバッシャール大統領のインタビュー記事を掲載している。概要以下の通り。

1. 対米関係

(1)シリアが米国との関係を評価する上で、オバマ政権からの明確かつ正確な言葉を聞く必要がある。オバマ政権からは、善意の言葉を聞き、前政権よりは受入可能な接近の姿勢が見られるがそれらは十分ではない。

(2)新政権は1ヵ月と数日しか経っておらず、2、3ヵ月を経なければ、評価材料が出てきようがあるまい。現在は状況把握の段階であり、シリアを訪問した代表団の目的も地域問題解決のための状況把握であると考えている。

(3)ブッシュ前政権は和平交渉には関心がないことを概ね公言していた。アナポリス会議は、ブッシュ政権の選挙のためのものであり、和平のためではなかった。なお、シリアは双方が調整済みであっても議会関係者と政府関係者に対する対応を区別している。

2. イラク

如何なる米政権であろうとも、占領が続く限り満足すべきではない。しかし米政権は撤退を宣言し、そのタイム・スケジュールを発表しており、より状況である。懸念も少なくなったといえるだろう。だが、イラク国内状況を見る際に考えなければならないのは、イラク人自身が完全に内政を運営できるようになるまでどのくらいの時間が必要かということである。

3. レバノン国会選挙等

レバノンは、合意に基づき生存しており、合意が存在しなければ爆発する。選挙が安定をもたらすのではなく、合意が安定をもたらす。選挙での勝者が合意に向かえばレバノンの安定をもたらす。しかし、勝者が勝ったとの理由で合意から身を引く場合、その結果は一つで、レバノンは破壊され、ドーハ合意でもたらされた安定から不安定に戻ることになる。

4. 対欧州関係

(1) 欧州との関係は前向きに進展している。関係は 06 年のレバノン戦争以降ゆっくりと始まり、現在、特にガザ戦争以降急速に発展した。第一の要因は、ガザ戦争であり、米政権が変わったことも要因かもしれない。

(2) イランの核問題に関しては、核不拡散条約がある。シリア、UAE を含めて、どこかの国が将来原子力の平和利用を希望するかもしれないが、同条約に基づき対応するだろう。欧州諸国にはイランが同条約から違反しているのか否かについて問うが、回答は返ってこない。同条約の遵守を監視しているのは IAEA であって安保理ではない。

5. 対サウジ関係

サウジとの和解は現在進行中である。見解の相違がないわけではなく、和解は始まったばかりである。サウード外相からサウジ訪問の招待を受けた。アブダラー国王との会見で意見の相違が解消されることを望んでいる。リヤドでエジプトを含めた 3 首脳会談が行われるのかどうかはわからない。

6. UAE との関係

(1) UAE とシリアの関係は良好で、最近 2 年間で新たな段階に入った。シリアに参入した UAE の企業の割合は非常に大きい。シリアにおける UAE 企業の活躍のほとんどは、不動産及び観光分野であり、その効果がでている。

(2) シリアの三島問題に対する立場は明確であり、シリアは UAE とともにある。対話による平和的解決が必要である。シリアは UAE、イランとも良好な関係にあり、両者の相違点や理解不足に対して支援することができる。

7. バシール・スーダン大統領の逮捕請求

国際司法裁判所が発行したバシール大統領の逮捕状は大きな問題であり、アラブ世界に影響を及ぼす。この問題で意見が分かれば、分断の溝は深くなり、更には固定化してしまう。シリアは、裁判所の判断を非難する。同問題でアラブの統一的な立場がとれるか否かは今の時点ではわからない。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799